

1 日 時 平成29年9月19日(火) 午後7時00分～午後9時15分

2 場 所 西成区役所 4階 4-8会議室

3 出席者

(有識者4名)

福原大阪市立大学大学院経済学研究科教授  
寺川近畿大学建築学部建築学科准教授  
ありむら釜ヶ崎のまち再生フォーラム事務局長  
織田釜ヶ崎のまち再生フォーラム代表理事

(行政機関15名)

大阪労働局 大谷会計課長補佐、宮田職業対策課長補佐、ほか2名  
大阪府商工労働部雇用推進室労政課 地村参事、中村課長補佐、ほか5名  
西成区役所事業調整課 室田課長代理、狩谷係長、ほか2名

(地域メンバー11名)

茂山萩之茶屋第9町会長  
田中萩之茶屋社会福祉協議会会長・萩之茶屋第5町会長  
松繁釜ヶ崎資料センター  
山田NPO法人釜ヶ崎支援機構理事長  
山田NPO法人サポーターズハウス連絡協議会代表理事  
佐藤公益財団法人西成労働福祉センター業務執行理事  
荘保わが町にしなり子育てネット代表  
吉岡釜ヶ崎キリスト教協友会共同代表  
山中釜ヶ崎日雇労働組合委員長  
野崎全日本港湾労働組合関西地方本部建設支部西成分会代表  
稲垣釜ヶ崎地域合同労働組合執行委員長

4 議 題

- ・本移転施設の機能について  
「多様な求職者(若者、女性)ニーズへの対応」の検討  
【講演】  
「女性の就労支援と働く場所づくり」  
講師 情報の輪サービス株式会社代表取締役  
特定非営利活動法人ZUTTO(ズット)  
佐々木 妙月 氏
- ・意見交換
- ・報告事項  
仮移転施設に関する情報について  
労働者関係調査の実施について  
本移転施設の機能検討スケジュールの修正について

## 5 議事内容

### (1) 議事

- 定刻となりましたので、第22回労働施設検討会議を始めさせていただきたいと思いますが、まだいらっしゃっていない委員の方がおられますので議事をご覧になって、もうしばらくお待ちください。
- 本日はお忙しい中、夜間にお集まりいただきありがとうございます。それでは会議に先立ちまして資料のご確認をお願いいたします。
- 本日もお忙しい中ご出席いただきましてまことにありがとうございます。本日も、前回に引き続きまして、外部の講師の方から話を聞かせていただく機会を設けさせていただきました。多様な求職者ニーズへの対応という非常に重い、また新たなテーマをご議論いただくにあたりまして、外部の先生方の活動を聞かせていただいたうえで、皆様方とこの地域に対応した仕組み作りを検討いただければと考えております。本日は長時間になるかと思いますが、先生のお話などについてご意見などをいただければと思います。
- それでは、第22回労働施設検討会議を始めていきたいと思います。開催が少し遅れましたので、冒頭、簡潔にお話ししたいと思います。前回は、外部講師を招き、多様な求職者ニーズに対応する施設のあり方について考えようということで議論を始めました。前回はAワーク創造館の館長そして就労支援室長にお越しいただき、お話しを伺いましたが、活発な意見交換が出来たかと思います。私も含めて相当いろんな刺激を受けたところです。本日も引き続き、先ほどご紹介がありました講師の方にお越しいただいております。今回はご講演をメインの議題としておりますが、報告事項として、仮移転施設に関する情報について有識者からご報告いただきます。また会議の検討スケジュールについての見直しについて、事務局からご提案させていただきます。労働者関係調査についても、近々動こうと考えており、情報提供できればと思います。なお、前回会議の振り返りについては、本日もご講演がありますので、省略して次回に詳しく出来ればと考えております。議事概要案に詳細な議事録をお示ししておりますので、ご覧いただき、不明な点があれば事務局にご連絡いただければと思います。それでは早速ですが、ご講演をお願いいたします。
- ちょっと待ってください。前回もそうですが、ここに来てもらう人を選ぶ基準は何ですか。全く分からない。色んなところがあるはずや。
- 多様な求職者として、若者や女性のニーズへの対応を検討する、というこの議題に沿って人選させていただきました。
- そういったことをやっておられるところはいくつもあるはずですが、ここをお選びになった基準は何なんですか。
- 実績があるからです。
- 他のところも実績あるでしょ。基準を教えてください。
- 10ヶ所あれば10ヶ所をお呼びすることはできませんので、あいりん地域についてもよく知っておられ、関心も非常に高いところを今回は特に重視しました。
- 釜ヶ崎の労働者の置かれている状況もよくご存知なんですか。
- こういった多様な求職者支援の活動を行っている団体の中では、よくご存知だということです。
- よく分かりませんが。
- それでは、ご講演よろしくお願ひします。
- 改めまして、ただいまご紹介いただきました情報の輪サービス株式会社の代表をしてお

ります、佐々木妙月と申します。今ご紹介いただきましたように、何故私がここに来たのかについて私自身考えておりました。そのことを私なりに答えさせてください。私は、株式会社で女性の就労支援をずっと行ってきたんですけれども、ある意味、非営利的な要素が強いなというように思っています。株式会社で利益を得ながら女性の就労支援をしていくということの難しさは、30年間行ってきた中で本当に痛感しております。ただこの事業は、私にとっても、自分自身のことでもあり、重要なことだなど思っていることと、それから女性の就労、特に就労困難な女性の方にとっても非常に重要な仕事だと思っていて、株式会社でありながらこの非営利的な活動を30年間行ってきたということもあり、自分でもやりがいのある仕事だと思ってきましたし、これからもやって行きたいなど思っていることが一つです。それと先ほどもご紹介いただきましたとおり、西成については非常に関心のある地域です。私自身が島根から出てきて、初めて一人暮らしを始めたところが西成の玉出という所でした。私自身、地方から出てきたうえ、若いということもあり、お金もなく、玉出の路面電車寄りの四畳半一間のアパートに引っ越して、そこで長く暮らしておりました。そういう意味では私の西成という場所への愛着は実はあります。これについては初めてお話ししましたのでどなたも知らないことだと思うのですが、そういった面で西成区に対しての想いというのは、私の中ではずっとあったということも事実なんですね。それで選ばれたのかは分かりませんが、株式会社をやりながらも非営利的な活動を今後も行っていきたいということは、皆さんに伝わっていたのではないかなと思います。では本日いただいています時間が1時間ぐらいということで、33年間私がやってきたことと、これからもやっていきたいということをお伝えさせていただく中で、西成区の地域の中でお役に立てることがあればいいなと思いながら資料を持ってまいりました。簡潔に説明させていただきたいと思います。それでは改めましてよろしくお願いたします。

<佐々木さんご講演>

「女性の就労支援と働く場所づくりについて」

- ・自分自身の就労活動経験を踏まえた女性の働く場所づくり。
- ・庄内の店主たちとのイベント。今では自主的に店主たちがやるイベントに。
- ・集まりが地域間のつながりに。場所づくりから横のつながりになった。
- ・支援者と相談者という関係だけではなく、お互いが対等だなど感じ、参加いただいた方に助けられる。
- ・助け合える関係性、支え合える関係性、守り合える、教え合える、分かり合える、聞き合える、つなぎ合える関係性をどう作っていくか。一緒に何かをすることによって様々な関係性が出来上がる。
- ・若い女性が来るにはどうすればいいか。
- ・1人でなく基本3人で動く。自分でもしていた。

○ どうもありがとうございます。講師の方のこれまでの人生の中からもたくさん学ぶことがあるなど、聞かせていただいた。今8時20分だが、報告事項もあるので、8時40分まで時間をいただいて、皆さんからご意見ご質問をいただきたい。直接この西成あいらんのまちづくりにどう活かせるかという話もあるかと思うが、ご自身の体験について、もっと聞いてみたいというところがあれば、聞いていただきたいと思う。

○ ありがとうございます。改めて伺いまして色々と勉強させていただきました。

口火を切るということで皆さんが話しやすいようにしようかと思えます。まず、今お話しいただいた地域と繋がる中間就労の仕組みとして、やはり講師の方がされているのは、ダブルエンジンの形を持たれていると思うのです。株式会社とNPOというのをもちにな

っているのは、何か意図があったのではないかと考えています。例えばそこに行政の役割と、自立しないといけない持続性の確保、というこの2つのジレンマとして、必要なものとして、エンジンというかエネルギーというかガソリンのようなものとして必要ではないかと思うので、そのあたりについて、お伺いできますか。

- もともとは女性の就労支援から始めました。会社を作ったのは、ちょうど1984年ですが、もともとNPO法がその時点であれば、たぶんNPOを作ったと思います。株式会社ではなかったはずですが、自分のことでしたし、女性の就労ということで、職を持つ、収入を得るといえるのは人生の大きな柱です。たとえ少しでもいいから自分で稼ぐお金を持つというのは、男性であれ女性であれ、これは必要で支えにもなると思っていました。仕事に関しての情報を得ていく、仕事を持つというのは、私にとって人ごとではなく、自分ごとだった訳です。NPO法という法律があれば、私はその時からNPOだったと思います。ただ、なかなかNPOで事業を継続していくのは本当に大変なことです。ですから、仕事ということと、仕事を紹介する民間の職業安定所をやっつけようと思えば、組織としてきちんとしておく必要があるということで、最初から株式会社だったんです。お金がありませんでしたから、大阪府やいろんな所に行って、法務局も1人で行って、税務署も1人で行って、教えてくださいとたずねました。定款も1人で作ってとあったことがあって、会社を最初から作ったんです。会社を作ったということで、その段階で株主がいますから、利益を追求していくこと、ひれが一つのミッションですよ。株式会社の一つとして利益を得ながら、その利益を社会に還元していくというのがミッションです。けれども仕事の内容は女性の就労支援ですから、非常にミッションと業務が離れている。仕事の職業紹介でお金を得ることはなかなかできないですから、株式会社をにした段階から、私たちができる仕事、利益を生む仕事を本当によくやりました。最初にやったのが請負だったんですね。請負でいろんな仕事を請けてきて、自分たちで夜中にやりながらお金を得て、そして非営利的な職業の紹介はボランティアのような形ですとずっとやっていたんです。先ほども説明がありましたけれど、その頃にちょうど派遣法ができました。それは、労働市場が経済が右肩になったときに、非常に劣悪な派遣の、それこそピンハネがすごかったりとか、そういう時代でしたから、法が整備されたというのは非常に大きかったです。でも私がやりたかったのは派遣ではなくて、安定した職業を得るといえることが私がやりたいことですから、最初からアンチ派遣でスタートしたんです。今でこそ当たり前ですけども、紹介予定派遣をその頃からやっていたんです。ですから、いいなという会社があれば、そこに就職してもらっていました。そういう仕組みですから、最初から本当に利益は出ないです。最初からここは非営利活動としてやっているのだから、安定した職業が決まれば、それが一番なんですね。良かったねということで終わる訳です。それから、相変わらず自分たちは請負で会社を維持していくという事業を一方で営業しながらやっていく。その時にNPO法ができましたので、正式に若者の支援と女性の支援、教育支援というのを非営利としてやっていくという風にNPO団体を作ったんです。NPOではなかなか利益は出ませんから、上手く使い分けて、会社で利益を得ることができたら、それを上手く活用できたらいいなと思ってはいたんですが、なかなか会社も今利益を出すのが大変な時代ですから、苦しいです。ただ、そういう風に最初から思いながら、今日まで来ているということです。

それと行政との協働ですね。協働という言葉は良く使われますけど、本当の協働というのは難しいですね。ちょうど2005年に大阪府と当時のドーンセンターという、女性センターですよ、女性センターが指定管理になる時代がありました。その時にドーンセンターの指定管理者として財団法人大阪府男女共同参画推進財団と一緒にあって、指定管理

を受けたんですね。その時に初めて大阪府と財団と私どもNPOとで協働でやったんです。コンソーシアムを組んでやったんですね。それが初めて役所さんとの協働事業でした。協働の難しさというのを本当にそこで学びましたね。大変でしたけれど、真剣にぶつかるといのは大事だなと感じております。その経験があるからこそ、豊中市さんともいい形で協働ができているのではないかなと思います。やはり、ネックはどうやって真剣にぶつかれるかということだと思います。あくまでも下請けではありませんし、協働というのは下請けではありませんよね。その意識を役所の方々にも分かってもらわないといけないですし、お互いにいい事業を一緒に作っていこうと意識を持っていないと、上手くいかないなと経験から感じています。

役所は転勤というか、異動があるのが困りますよね。やっと人間関係ができたのに、またという感じで、本当に苦しいです。いい人に当たればいいですけど、えらい人に当たったら大変です。話にならないというか、そういうことがありますね。そういう風なことを経験から学ぶしかないんだなと思っています。

→ 基本的なことをお尋ねしたいんですが、株式会社とNPOの方で従業員というか社員の方と、支援の対象になっている方はどれぐらいいるんですか。

○ 現在、支援の対象になっている人は、新しく地方創生の事業費を活用してお店を運営し、そこで就労しながら、トレーニングし、次に繋げていくこととしています。そのスタッフが今女性5人おります。5人のうち、ワークシェアしており正社員は2人です。なかなか5人の雇用は予算上難しいので、パートで働いていてくれますが、そこでの研修が結構充実していますので、働きながら研修を受け、キャリアを身に付けて、次の仕事に繋げてくれればと思っています。

それから、今は若者の居場所になっていますが、若者の居場所と子ども食堂は自主事業でやっていて、その他、火曜日から金曜日に暮らし応援室で、これは委託事業です。生活困窮者の支援事業として委託でやっています。ここは委託費の中から女性スタッフ2人を雇用しています。あとは自主事業ですから、NPOと会社を合わせて、現在総勢39名、社員にプラス、パートさんなどを合わせて39名です。いろんなところから通ってきてくれますね。

→ その支援で皆さん巣立っていく訳ですけども、巣立っていく期間は違うと思うんですけど、平均でどれくらいですか。

○ 基本は1年です。1年で巣立って次の方を雇用する。予算のあるときにそれを活用していかないと、1人の方に使うよりも複数に使った方がいいですよ。

働きながら、研修を受け、就職活動は豊中市さんの地域活動就労支援センターと情報交換し、情報を得ながら繋げていくということを協働でしています。

→ そういう試みに参加してくる方々は、どういうルートで募集なさっているんですか。また、それで失敗する人もいると思いますが、その辺はどうなっているんでしょうか。

○ 全部ハローワークです。

→ ハローワークでくるの。

○ ハローワークに出しています。国の予算を使いますので、そういう意味ではハローワークを通じて、全部来ていますね。そういう意味では合わない人もいるでしょうし、途中で卒業される方もあります。

→ 豊中市の就労支援というか地域就労ですが、そこからの支援で受けるというのはないんですか。

- 支援でいらっしゃる方もあります。たまたま、そういう紹介で過去にいらっしゃる方は何人もいますけれども、今は全てハローワークです。地域就労にいらっしゃる方はもう少しだけ支援が必要な方々ですから、ハローワークからいらっしゃる方とは少し違います。
- ハローワークをよく使われていますが、労働局の方は知ってましたか。
- 知りませんでした。その、お店で働く方を募集されるんですか。
- 池田のハローワークに出しております。
- 訓練をされた方をまた職業紹介されるんですか。
- ハローワークに求人を出しています。
- 求人を出して雇用され、一年間の色々な分野の訓練をされた後に、どこかに職業紹介事業を使って紹介されるんですか。
- 社員になってきっちり働く場所を見つけてもらいたいための訓練ですから、就職活動を本人さんもしていきますし、私たちも就職活動の支援はしていきます。
- ハローワークじゃないんですね。
- ではないです。
- だから、緊急雇用のときにハローワークを通さないといけないんですね。
- 緊急雇用はハローワークを通さないでだめです。地方創生もそうですけれども。ハローワークから求人を出してもらって、雇用して、トレーニングをして、就職活動はご自身がします。勿論、ハローワークに行く方もいます。いますけれど、自分で就職活動したり、私たちも情報提供したりします。
- 先ほどは控えめに言っていたと思うけれども、行政に対していろんな意味で、何でこんなことも出来ないのとか、壁があったりとか、たぶんいっぱいあったと思うんですね。逆に、それがあから私たちがやってみよう、というところがあったのではと想像するんです。それは前置きとして、今お聞きした中で、特に中間就労などで基金を使いながら、プログラムであったり、経験を積んだり、資格を取ったり、店で働きながら地域で繋がっていく。大雑把に言ってしまいましたが、これを聞いて、今でも釜ヶ崎の地域で出来そうなど言いますか、ここの委員さんも独自でやっている部分もあるんだけど、例えば地域の中で、こんなことをやろうと思ったら一つの方向性としてあるのかなと思ったんです。もう1つは、この会議で話しているセンターの労働施設を建替えていく中に、どういう機能を入れ込んでいくのかという流れの中で、今回の話があったと思んです。今の話しは地域としては、個人的には興味のある話で、これからこういう話しは活かしていけるのではないかと思います。女性だけじゃなくても、青年であったり、高齢であっても地域と繋がっていきながら技術を身に着けたり、客商売も自分は出来ると自信をつけて、どこかに働きにいったりと繋がられると思います。色々な可能性を秘めていると思うので、地域としても、取組みとしてはすごい魅力だと思います。
- もう1つお聞きしたいのは、前置きのところにも絡んできますが、例えばもっと行政側、ハローワークであったり、それ以外でも労働局や商工労働部がやっている色々な窓口、大阪側でもいっぱいありますよね、割と集まっていると思うけれども、こういったところがあるんだけど、釜ヶ崎の労働施設が出来たところに、例えば、女性たちが必要なものがあるとしたら、行政としてこういう施策、こういうものがあつたらいいとか、何かあるのでしょうか。自分たちが何かないもので、民間が何か作り出せじゃなくて、例えば行政に対してこういうもの作ればいいやろうみたいなものは、何かイメージがありますか。
- やっぱハローワーク。ハローワークの機能をもう少し充実させるとかは、どこまで可能かは分かりませんが、例えば、訪問するハローワークがあってもいいだろうなど

思っていますし、待つだけではだめだろうなと思います。特に西成という地域だと、ひょっとすると潜在的にまだまだ、なかなか出られない方がいると思いますし、情報が届いていない方がいるんじゃないかなと思います。ハローワークの機能の一つとして、出かけていく、アウトリーチはあってもいいなと思いますね。私たちが行くのとは、また違う訳ですからね。私は豊中ですから、池田のハローワークに行きますけれども、パソコンが足りないのかなんなのか、検索待ちがすごいんです。検索のためのパソコンですけれども、今はネットの時代ですから、自由に触れるようなパソコンがあったらいいんじゃないのかなと思います。スマホは触れてもパソコンはほとんど出来なくて、まだまだ触れられない方が多いんです。ですから、ちょっと自由に触れるところがあればいいなと思います。そこに支援員さんが1人でも付いていてくれていたらいいなとかなど、要望を言えばいっぱいありますが。

→ 釜ヶ崎ではね、センター3階にあいりん労働公共職業安定所というのがあるんですけど、仕事の紹介をしていないんです。どう思われます。仕事の紹介をしていないんですよ。47年間あって1件だけ。求人がないからっていつて逃げているんですけども、それで労働者が困っているんですけど。あなたには難しい。

○ 委員。おっしゃるとおり求人の1件というのは以前からお話ししていますが、努力とは言いがたいとの委員の意見について、これは重々お聞きしているんですが、職業紹介業務をやらないということではないんです。弁明にはなるんですけども、やろうとはしているんですが、1件以来実績が上がっていないという状況でございます。今後、二度とやりませんよということではありませんので、そのところをご理解いただければと思います。

→ 47年間やっていてね、今年の2月に初めて1件だけ。仕事紹介したの。労働者行かなかった。なんでや言うたら賃金が安いから。言うてることと、やってることが違うんやから。あんたは良くご存知やと思うけど。

○ 折角の機会ですので、他にどうでしょうか。

○ 逆に、今私がお伝えしましたけれど、アウトリーチって難しいですか。ハローワークでは難しいでしょうね。

○ 今もですが、ヨーロッパのハローワークはやっています。フランスでは、やっています。就職に近い遠いで求職者をいくつかのカテゴリに分けて、パソコンも使えて比較的仕事に近い人は、自宅のパソコンで全部検索して、自分で仕事しています。これはハローワークの求人のページを見ながら自分で探しています。その分、就職に遠い人に対しては、きちんと面談の時間をとって、かなり丁寧にしています。その間の中間もあるんですが、相手に応じた仕組みをいくつか持っています。

→ 講師の方のイメージは、出かけるというのは、具体的にどういうところの、どういう人たちとおっしゃってるんですか。

○ 働きたいけれど、どこに相談に行ったらいいのかわからないとか、働くというイメージの遠い方とかがいるのかなと思っています。

→ いわゆる社会的就労困難者といわれるような人たち、状況にある人たちですか。

○ そうですね。そういう人たちに出ておいでと言っても、なかなか出てこないだろうなと思います。状況を把握するという意味で、特に西成の。私は女性の就労で来ましたので、そういう女性たちがいるはずですよ。そういう女性たちが今どんな仕事に就いているのか、どう考えているのか。ヒアリングですよ。そういうのが出来ればいいなと思います。

→ 特に女性は追われて追われてなので、なかなか家事やら子育てなどで外に出かける時間も無いという悪循環に陥っているからということですね。

○ はい、時間が無いです。それとやっぱり、西成区は結構支援に繋がっている可能性が高いのかも知れませんが、支援に繋がっていないケースが結構あります。今まで1回だけありましたけれども、ハローワークを知らない女性がいました。どうやって就職活動していたのと聞くと、無料のタウン誌を片っ端から見て、でも電話のかけ方すら知らないから、電話の段階で断られてしまう。それでも何とかということで、その女性は子どもが3人いましたが、19歳で子どもを産んでいますから、就職経験がないんです。3人の出産の間に少しずつパートで働きながらなので、何の就職活動のいろはも分からない、ハローワークって何っていう方が1人だけいました。今までどうしていたのかというと、求人誌しか方法が無いんです。離婚しているので、ママ友とも離れているし、そんな話しはしたくない。親元に帰ったけれど、親は早く出て行けと言うので、片っ端から電話をするんですけども、その彼女が友達からハローワークに行ったらと言われて、そのとき初めてハローワークって何となったんです。そのときに、その彼女と一緒にハローワークに行って、そこでうちに繋がったんです。その彼女も今では調理師免許を取って、正社員として働いています。うれしいですね。

→ 青空マーケットなんかは、お母さんが働いているんですか。

○ 働いています。

→ 「ぐーてん」の若者の居場所ですが、その子どもたちは働く場所はあるんですか。子どもたちといってもいずれ18歳になっていく訳で、「ぐーてん」にいる子どもたちはどうするんですか。

○ 今のところは低学年から6年生ぐらいまでの子どもたちが来ているんです。

→ 18歳とか15歳とかの子は来てないんですか。

○ 来てないんです。小学校区の子ともたちだけが来てるんです。狭いところなので、今のところ12、13人です。

→ 中学生になったらどうするんですか。

○ 中学生になったら、時々ボランティアなどで来てくれるんですけど、クラブ活動とかあまり来ないですね。

○ 地域就労、地域との繋がりですとか、町会との関係とか、その可能性はどのぐらいあるのかということをお話ししていただければと思います。

○ 豊中市では私たちは、よそ者なんですよ。だからこそ、余計に地域に入っていないとだめだなと思っていました。自分たちから出て行くっていうのは大事ですから、お祭り、ついこの連休ですね、昨日一昨日の台風のときに、南部フェスティバルという大きなお祭りがありました。そういうところにうちの関係するスタッフは全員出かけていって繋がりを持つようにしています。地域のお祭りですと自治会長さんが出るんですね。自治会のごとはほんとに知らなかったんですけど、豊中も結構あるんです。自治会はすごく高齢化しています。年一回のお祭りですが、大きなお祭りですから、月1回夜7時から会議があるんです。大体70～80人集まります。70代前後の方が多いいんじゃないですかね。そこには私たちは参加します。参加しながら、地域の中で何か出来ることを一緒にすることでしか、繋がれないですね。お祭りも、バルも庄内祭りという商店街のお祭りがあれば出ますし、地域の祭りにも出て、会議にも出ます。よそ者ですから、こちらから行きます。

→ 池田職安から来る人が多いとのことですが、庄内に住んでいる人たちではなくて、庄内にそういう就労支援の仕組みがあるから来るということで、よその地域に住んでいる人もかなりいるわけですね。その辺の構造というのは、このあいりん、釜ヶ崎で就労支援する際に、どこか似ているところがあるのか、無いのかということをお聞きできますか。

- 豊中はハローワークが池田にあるから、変だなと思うんです。庄内に作って欲しいねと いつも言っているんですが。やっぱり庄内の求人ですから、庄内に近い方が来られます。大体7から8割は、庄内とか曾根とかあの辺りで、北の方が多いです。東三国とか市内からいらっしゃる方は、あまりいないですね。
- 昔ホームレス調査があり、ホームレスの方が増えた頃に庄内も相当いましたが、その頃に私は行ったんです。その時に、庄内は豊中の西成と呼ばれているところだと言われたんです。
- 今でもですが、だから、私は好きなんです。何で庄内なのとよく言われます。庄内以外のことはしませんと豊中市の方にいつも言うんです。広げたってできないし、私の関心のあるところはそうですからね。庄内と西成の大きく違うところは、庄内は少し女性が多いです。朝は駅前に、本当にホームレスの方とか男女がたくさん集まります。女性も何人も混ざっています。そこが少し違うのかなと思います。庄内は、私の印象では誰をも排除しないという印象があります。私もよそ者です。うちのスタッフもみんなよそ者ですが、本当に柔軟に、ウェルカムっていう感じですね。昔本当にホームレスの方がたくさんいらっしゃったとおっしゃいますけど、その名残というか、その雰囲気はまだあります。すごいと思うのは、行政が、たむろする場所に植木を置いてみんなが集まっている場所を塞いじゃったんです。なんとまあ、と思ったんです。
- 西成も一緒。酷いよ。
- ごめんなさい。行政批判をして。
- でもそれが現実やもんね。
- でもすごいのが、たむろされたら困るからと植木をいっぱい置いて、さあどうするんだらうなと思っていたら、強いです。違うところで、ちゃんとまたそういうエリアを作って、今は何も問題なくね。それだけのことなんですよね。
- 南海電鉄もそうやったやんなあ。
- 良かったなと見ていたんです。
- 祭りの話が出ましたが、三角公園で夏と年末越冬闘争がありますが、町会さんの方はそこに参加したり、独自でやったりされているんですか。私は良く知らないの。
- 祭りは、地域でやっているところと、やってないところがあります。地域では盆踊りをやっていたりするところもあります。このホールでは区民祭りとかです。やっぱり、地域で出来るところ、出来ないところがありますから、それぞれでやっています。
- 萩之茶屋は、レクリエーションをやっていますね。
- それぞれが、ばらばらな感じがしますが。
- 市民館でも文化祭をやっていますよね。組合は組合で。そこがもう少し繋がっていければ、いいんですけどね。これから繋がっていけるんじゃないかな。
- そう。新しい出会いの場になれば面白いですね。
- それも繋がることしかない。参加することしかない。
- 佐々木さんのところは、町会に入っていますか。
- 町会は、勿論入っていますよ。ちゃんとお誘いにいらっしゃいますから。
- 時間が相当過ぎているんですが、他にご質問があれば。
- 簡単なものだけど、アウトリーチっていうのは、職安が出て行って、仕事の開拓っていうのか、働きたい人に声をかけていくという意味ですか。
- 両方必要ですね。就労職業の開拓と、働く人たちがどんなニーズを持っているかとか、どんな状況なのかとかが分かっていると、本当のマッチングは出来ないと思うんです。

- ありがとうございます。あいりん職安、センターの1階に下りて来てやったら。労働者にちゃんと聞いたら。
- 先ほどちょっとフランスの話をしてしましたが、厚労省は情報として持っているはずで、労働政策研究・研修機構という厚労省の外郭がありまして、そこでいろいろ調査をしていて、そこに情報が出ているんです。10年後を楽しみにしたいと思います。
- 職安の中に閉じこもってたらあかんよ。
- おっしゃるとおりです。
  - 豊中は、A君の高見さんと、もう1人元豊中市の西岡さんがいらしてたんですよ。その方がいらっしゃる時に、無料職業紹介所と地域就労支援センターをお作りになったのは大きかった。豊中市も大きかったですよね。ハローワークがアウトリーチっていうのはなかなか出来ないっていうのがあって、役所が、今はもう地域就労支援センターを持つことが出来たし、無料職業紹介所も出来るようになりました。無料職業紹介所を持つことによって、職業開拓に豊中市は行っていますものね。だから、そこら辺の仕組みが大阪市にもあればと思いますね。
  - まあ、2000年に法律でそういう事業をやるのが認められて、豊中市は2005年にスタートしたんですね。
- あれが大きかったでしょうね。
- 前回来ていただいた西岡さんは、豊中市内だけでなく、その周辺の市に対しても、その事業所に相当営業をかけて求人開拓していた。例えば、いきなり求人開拓ではなくて、会社の困り事を自治体としてちゃんと応援しますよというスタンスで、企業さんにアプローチして関係を良くしていく。そういう企業は成長するので、新しい求人が出てくるんですよ。そこに、じゃあうちで支援している人を、3ヶ月トライアルで使っただけませんか、ということで繋いでいく。こういう仕組みです。
- 企業支援っていうのが、すごくインパクト与えましたね。
- そうですね。
  - 中間就労で雇用される人たちが出てくるように、企業を支援していくというか。
  - 豊中市だけでなく、全国の市町村でもやっているところが結構増えてきているんですよ。ただ、これは自治体本体でやるのもオッケーだけれど、勿論民間ベースで委託だったり、連携だったり、実際にいろんな形で民間ベースでやってるところも結構あります。ここには、いろんな団体さんが来られているので、みなさんにも考えていただけたらな、と思います。  
このあいりんの地域で何か事業を立ち上げる。食べ物をベースに何か出来ないかな、と有識者の方と話していたんですが、あいりんの労働者の方はモーニング好きですよ。中にはコーヒーにこだわりのある人もいるんじゃないかと思うんですが、彼らにモーニングを作るというのはどうかとかな。
  - 仕事作りということですね。
  - 一方で、中国人の女性も増えているので、彼女らに美味しいコーヒーを飲みに来てもらう。夜は中国居酒屋のお客だけれども、昼間は彼女たちがお客になる。これはあくまでも話題としての例ですが、この地域の若い人たちに考えて欲しいなと思っています。実は、若い人たちが集まるようなところで、またお話しをしていただけたらなと個人的に考えていますので、企画していただければと思います。本日は、どうもありがとうございました。
  - ありがとうございます。

- それでは時間が少なくなりましたが、報告事項の方に移りたいと思います。まず仮移転施設に関する状況について、有識者の方からよろしくお願いいたします。
- 前々回プロジェクターで見ていただいたかと思うんですが、今日も時間が無いので、別途、この仮移転の状況について時間をとっていただき、ご説明させていただきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。
- 先生、資料は綺麗けどね、実際はこんなですよ、高架下。危なくてしょうがないよ。もう81年経ってて。コンクリート落ちてくるところにこんなもん作って、労働者の安心安全って言えますか、こんなんで。
- 次回の会議で、この仮移転の話にしっかり時間とって議論したいと思います。
- 風化して落ちてるんですよ、コンクリートが。
- はい。
- 委員、ありがとうございます。その点については、南海電鉄の方をお願いしておりますので、来年の工事が始まる時には綺麗になっていると思います。
- お願いしてたらあかん。自分らでもきちっと調査しなさいよ。自主的に。
- 引き続き、また危ないところあればお教えいただきたいと思います。
- 危ないがな、これ。
- はい、情報ありがとうございます。
- さっと流しといたらあかんで。
- 労働局さんから、進捗状況について。
- 手短かにご報告だけさせていただきたいと思います。あいりん職安の仮移転先の整備工事の部分なんですけれども、皆様方にご報告をさせていただいておりますが、7月からやっております。お蔭様で計画通りに進んでおりまして、あいりん職安の北側のブロックの部分についてはもう撤去完了しておりまして、今南側の待合の部分の壁の撤去工事に先週から入っていると、こういう状況でございます。一応9月末までの工期の日程で撤去工事を行う予定にいたしておりますので、進捗状況としては進んでいます。きっちり進捗していますという形でご報告させていただきます。
- 職安もこういう状態やから、あそこ。81年経ってるんやから、あれ。
- はい。以上でございます。
- その他についてですが。
- なんか調査するみたいやとか、なんや、わやわや言うているけれども、それについては何か情報提供はないの。
- 調査は今から少しやります。  
労働者関係の調査をする話しを前回少しお話ししましたが、本格的に動くのは10月の頭ぐらいからです。それで、調査票はほぼ出来上がっているんですが、今プレ調査をやりながら、私たちが作ったものが、当事者、労働者の人たちの目線に立ったものかどうかを点検する、そういう作業をしているところです。前回お話ししたように、勿論その当事者の人たちのニーズをふまえて、新たな本設移転の施設の機能に活かすというのが基本です。それと併せて、現在、日雇労働者の方たちが直面しているいくつかの課題、1つは保険の問題、そして早朝求人の問題、これについての実態をお聞きするという項目も入れていません。調査票は、本日持ってきても良かったんですけども、まだ完成版じゃないので、出来上がった段階で、また皆様方にお見せしたいと思っております。それから、もちろん労働者関係調査だけではなくて、別に地域の町会の人たちの調査なども含めてやりますので、町会の人たちもまたご協力いただきたいと思います。

→ 今回のを公表するということはないの。

→ 車の台数調査があるじゃないですか。

○ はい。

→ 車の台数調査やるって言ったじゃないですか。その時に求人の状況、だから朝開く前までに車で何人連れて行ったのか、開いてから何人連れてったのか、現場ではなくて飯場で直接求人した分をセンターに報告したのは何人なのか、そういう場所別、時間帯別の求人数みたいなものも、今は大雑把にやってるんじゃないのか。センターの職員が歩いて回って、センターで求人したのも、飯場で求人したのも合わせて、今日は何人という形でしか把握してないはず。それを細かく分かるようにしてよね。

○ それは、難しいですね。

→ 難しいけれど、そうしないと100人やったけど、センターでは10人しか集めてません。後は飯場に直接来てるというのでは、規模感がぜんぜん違う。

○ 今、労働者さんを対象にした調査の準備をずっと進めておまして、次に、センターの利用者さんであったり、委員がおっしゃったような事業所向けのような調査の3つの調査を予定しています。まずは労働者さん向けのインタビュー調査を進めていただいていますので、その辺もふまえて、できる限り内容のある調査に行きたいと思います。アンケート調査の形になるかも含めて、引き続き検討してまいります。

○ あと簡宿を利用している労働者さんについても、簡宿さんにご協力いただいてやるんですが、簡宿に泊まっている労働者の人たち全員がセンターを利用している訳ではないので、そのことを一応ベースにして、推計値でセンター利用者として直接出ている人の割合、人数を出していけるかなとも思っています。

→ 言いかけたけど、調査票は事前にこういうところで公表することは考えてないの。

○ 事前はないんです。

→ どこで練ってはるんですか。調査票は。

○ 有識者会議の中でです。

→ 有識者。

○ はい。委員会を作ってやっています。

○ 本移転施設の機能検討スケジュールの修正について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

○ 前回、月1回開催している労働施設検討会議で、大きく8つのテーマの検討を重ねていただいています。当初は、この秋ぐらい、ちょうど今頃には、機能の検討を終わらせたんですけども、特に今、多様な求職者ニーズの対応という非常に重い、また将来に向けて重要なテーマについて、外部の先生方のお話しも聞きながら検討いただいております。本日は、この本移転施設の機能検討スケジュールの修正案をお持ちいたしました。本日は、多様な求職者ニーズへの対応に関する勉強会をさせていただきましたけれども、予定といたしましては、今お聞きしましたようなお話しも含めて、あと2回ぐらいでいろんなご意見もお聞きしながら、まとめて行きたいと思っております。あと2回でまとまるかというのは難しい部分もありますが、機能としてどう考えていくのかというレベルでご意見をお伺いしたいと思っております。予定でまいりますと、11月、12月ぐらいには積み残しになっております、センター機能の対外的なPR、あるいは50年の歴史を残す取組み、さらに最終的にこの地域の顔としての機能などの労働施設としての機能の検討項目を、最後に並行してという形になりますが、年内ぐらいでご検討いただきます。また、機能検討の取りまとめと並行して、規模については年度内の3月に向けて検討いただく予定で考え

ています。ただ、この3月というところに終わりを決めて、バタバタとやってしまうのはいかなものか、というご意見もあろうかと思しますので、年内の検討状況を見ながら、もう少ししっかりと検討してはどうかとかについて、柔軟なスケジュール対応をさせていただきたいと思います。また、今年2月に労働関係問題に特化した議論がありました、12月ぐらいに機能の検討が一段落する頃に予定として入れておりますが、これからの検討状況により柔軟に対応させていただきたいと思います。以上説明でございます。

○ はい。ありがとうございました。あと、皆様方から何かよかったですでしょうか。では本日の議題は全て終わりました。

○ 最後にまとめのお話ししたいと思います。本移転施設の機能ということで、議論すべき課題はまだ残ってはいるんですけども、メインはやはり労働ですので、この間、労働福祉センターの機能の充実ということ、それを踏まえて、プラスアルファの機能として、今やっている多様な求職者ニーズに対応する仕組みを考える。そのベースになるような知識を我々が持つ必要があるだろうということで、前回そして今回、外部の講師の方にお越しいただいてお話しを伺ったというところです。必要であればもう一回ぐらいするかも知れませんが、これを踏まえてさらに充実した内容を委員の皆さんと今後考えていきたいと思っております。

次回ですが、この学習会を踏まえて、そういう意味では地域の実情に即した就労のあり方等々について議論したいと思っています。それから、今日は十分にご報告できなかった仮移転について、次回は時間をしっかりとって説明したいと思います。

○ 本日お配りしている第21回議事概要案について、修正等がありましたら9月26日（火）までに大阪府商工労働部事務局までお知らせください。

前々回の議事概要はホームページに掲載しておりますので、ご覧いただければと思います。

次回第23回労働施設検討会議は日程調整後、改めて来月冒頭ぐらいまでにはご連絡させていただきます。